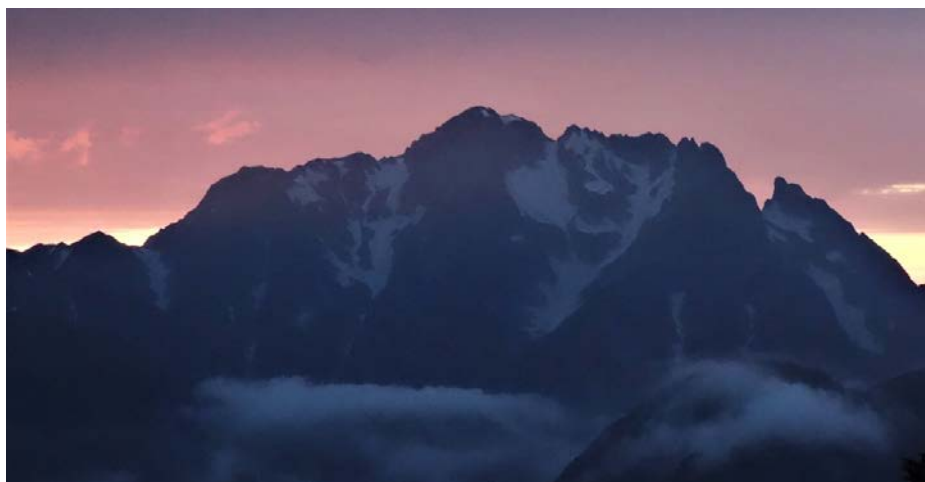


会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2019年9月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2019年 9月1日発行 通巻317号

夏山は気象の
変化に要注意！

9月号目次

・ 目 次	2
・ 事故防止交流集会の案内	3
・ 夏山特集	
・ 船橋勤労者山の会	4
・ こまくさHC	6
・ かがりび山の会	7
・ ちば山の会	8
・ 市川山の会	11
・ ワンコイン講習会案内	13
・ 県連予定表	14

表 紙 説 明

今月号と来月号は夏山山行特集として、投稿をお願いしました。
市川山の会は、毎年夏山特別企画山行を実施しています。
今夏は、北ア・針ノ木岳縦走の報告をいただきました。
10月号も夏山特集です。
山小屋でオバケにあった話、狸に化かされて道に迷った話等を
期待しています。ウソでも作り話？でも・・・
表紙用の写真もよろしくお願いします。

2019 事故防止・経験交流集会の案内

千葉県勤労者山岳連盟・教育遭難対策委員会

今年も事故の共有化・再発防止と各会交流を趣旨に開催します。

開催場所は昨年と同様に「富津市民の森」で行い、登山技術・経験の習得についてをメイン・テーマとして進めていきます。また国際山岳看護師の講演もありますので、各会の積極的な参加を期待します。

詳細は下記を参照下さい。

記

1) 主催 千葉県連盟・教育遭難対策委員会

2) 日時／場所 11月9日(土) 13時～10日(日) 12:00 終了

9日<12:00 管理棟にて受付開始>

富津市民の森 千葉県富津市豊岡 2785-1 0439-68-0929

- 3) 内容 11/9 (1)今年度の事故に関する報告 13:10～13:50
全体傾向、個別事故報告
(2)登山技術・経験の習得について 13:50～16:20
①労山アンケートの紹介
②船橋勤労者山の会「新人育成プログラム」の取り組みについて
③ディスカッション「各会の取り組みと県連に望むこと」
(3)国際山岳看護師の講演 16:30～17:30
(4)夕食／各会紹介／交流会 18:00～21:00
11/10 (1)事故事例研究 8:00～9:30
「神室山でのビバーク」(ヤマケイ 2019年2月号掲載)から得られる教訓
グループディスカッション&発表
(2)実習 9:40～11:40
地図読み、コンパスの使い方、スマホ地図 S/W の活用、ビバーク

4) 参加費 2,000円／人。交通は各会毎に。 単日での参加可<費用500円>。

5) 装備／食事

各会：飲み物、食材（炊事場・食事卓は外のキャンプ場）、ツェルト

各自：コンパス、スマホ、座布団（会議室の椅子は木製）、シュラフ一式。

6) 宿泊設備 バンガロー、コインシャワー有り。

7) 実施規模 40名程度（スタッフ含む）

8) 参加申込／締切 申込書添付にて教育遭難委員会 伊東：itou2385@yahoo.co.jp

090-1774-3384 10/27 締切

会場の都合上、申込多数の場合は、調整する事が有ります。

夏山報告

船橋勤労者山の会

今年の夏山は会山行合宿は行わず個人山行としました。十数パーティーが南北アルプス、東北、北海道、海外の山に登りましたが、そのうち二つだけを紹介します。

7/20～28 マッターホルン

一人でマッターホルンに登って来ました。

7/23 ツェルマットからロープウェイの終点シュワルツゼー駅へ。そこから歩いて2時間でヘルンリ小屋に着く。ここまでは文字通り、老若男女が登って来る。泊りの客は50人くらいで、翌日山に向かったのは半分くらいだった。ほとんどがガイド登山で、単独は私の他一人だけ。名古屋から来て、明日一緒に登る人の話しでは、ガイドから水1リッター、雨具、少しの行動食、アイゼン、だけでいいと言われたみたい。

7/24 午前3時半、あわただしく朝食を済ませ、皆外に飛び出して行った。無風、快晴、手袋のいらぬ暖かさ。小屋から歩いて10分の取り付きは一人ずつしか登れないので、何分か待たされたが、午前4時半に登攀開始。しかしそれから、超軽量ルートを知り尽くした皆さんは、恐ろしく早い。すぐに光りの塊から離され、ルートが分からなくなった。右往左往している間、光りの先端ははるか高みを登っている。夜も明け、小さくソルベイ小屋も見えて、午前7時50分頃通過。小屋の手前の5メートルほどが4級くらいあった感じで、今回の中で一番難しかった。ソルベイ小屋を後にして、しばらく登っていると頂上に続く稜線が近くに見えて、頂上まであと二時間くらいかなと思った。今でも脳裏に焼き付いているのは、ソルベイ小屋と頂上の間あたりを登っている時、上の方で日本語のラクに似た言葉と共に、凄まじい落石。その中で、赤い服装の物体がマリのようにはねて、落ちて行った。近くにいたガイドの一人が、すぐに何処かと連絡をとって、今日はここから降りてくれと言う仕草。時を得ずして上空にヘリコプターが舞う。降りて行く時、私と同じ単独で登っている人に追い付くと彼は、フォーパーソン・・・四人落ちたと言ってるのか。午後1時半、私はヘルンリ小屋に帰れた。山小屋は今日の事故の事で騒然としていて、同じ部屋に泊ま



ったシャモニのガイドも熱っぽく語ってたが、早口でわからない。こんな時に限って、今日の日本人の泊り客は誰もいなかった。事故の詳細がわからないまま下山したが、地元のツェルマットでは、話題になってなかった。私が見たのは、赤っぽい岩が落ちて行っただけなのか。7月25日付 ニューヨークポスト紙に、やはりその時、二人滑落して亡くなった、という記事があったとのこと)

末吉

7/30～8/1 剣岳長次郎雪溪

メンバー：酒井 L、岡田 SL、畑澤

7/29(月)20：00 津田沼発。24：00 道の駅松川

7/30(火)07：30 扇沢始発。09：00 室堂発。曇時々晴れ。12：00 剣御前小屋。剣沢小屋から40分程右側陸上を歩き剣沢雪溪を下る。真砂沢ロッジ手前の雪溪は崩れているので左側陸上を歩く。16：00 真砂沢ロッジ着。幕営

7/31(水)05：15 真砂沢発。晴れ。長次郎雪溪の状態は良好。熊の岩から見ると右股はかなり横クレバスあり。左股は良好。但し左側（源次郎尾根側）は小クレバスあり。真ん中よりやや右側を登る。コル手前の雪溪最後が切れていた。左右は崩れそうなので真ん中をスタンディングアックスビレイして下り偵察。直角だが2m程で地面に着く。最後はピックとバイルを打ち込み下る。右（八峰側）が易しそうだったが、地面から見ると薄いスノーブリッジになっており、真ん中でよかった。あとは岩稜を30分程登れば頂上。11：00 剣岳。平蔵谷の雪溪は良さそうだったが、安全第一で別山尾根を下る。剣山荘の先に真砂沢方面への標識あり行ってみた。荒れた道だが剣沢雪溪の反対側（下りで左側）に出られ時間節約できた。17：00 真砂沢。11時間45分行動で疲れたが、大満足。前々回の海の日連休は雨と濃霧で剣沢から引き返し、昨年8月初めは猛暑による左股大クレバス横4本で熊の岩から先は登れずでしたが、今回は天候に恵まれました。

8/1(木)05：30 真砂沢発。晴れ。13：30 室堂着。長野道経由で渋滞なく、21：30 津田沼着
シニア隊雪溪登り頂きへ 酒井



南アルプス 鳳凰三山 山行報告

竹口正孝(千葉こまくさ HC)

日 程・2019年8月2日(土)～3日(日)

コース・

- 1日目・千葉 6:38(あずさ3号)―荇崎 9:18/55(バス)―青木鉱泉 10:50/青木鉱泉登山口 1090m 10:55…南精進ヶ滝 12:25/30…白糸滝 14:00…五色ノ滝 14:30/40…
鳳凰小屋 2382m 15:25
- 2日目・鳳凰小屋 5:10…地蔵岳 2764m 6:10/30…赤抜沢の頭 6:40/45…分岐 7:35…観音岳 2841m 8:05/10…薬師岳 2780m 8:35/55…御座石 9:45/50…薬師岳登山口 12:10…青木鉱泉 12:50(入浴)/15:00(バス)―荇崎 15:55/16:18(あずさ24号)―新宿 18:04―千葉

■ 南アルプスの山々からいつも眺めていた鳳凰三山にいつてきました。

荇崎駅からのバスには登山者が5人ほど乗り込み一時間ほどで青木鉱泉に到着。
なだらかな歩き易い道を過ぎると何度か渡渉を繰り返して意外とキツイ急登歩きも滝パワーに癒されながら家庭的な小屋に到着。

スタッフの応対も良く、登山仲間達と楽しく山話をしながらのどを潤す。辛口カレーの夕食時に、ここだけピンク色のタカネビランジが咲いているとの話も聞いた。

■ 二日目は少し早めに出発。地蔵岳までの急登もザレ場歩きも、岩場に咲いているタカネビランジに感激しながら登頂。オベリスクからの眺望を期待通りだった。

地蔵仏すぐ側からはハイマツのように地を這うシャクナゲにびっくり&癒され、観音岳への岩場下りに注意しながら、稜線ピークからの絶景とひんやりした南アルプスの風が心地よく気持ち良かった。

広い薬師岳山頂でゆっくり眺望を楽しんでから 1600m下る中道を青木鉱泉に下山して完結。ますます好きになった南アルプスの山旅となった。



地蔵岳と菩薩さま



タカネビランジ



五色の滝

かがりび山の会 夏山（8月）山行記録

1. 白馬岳→雪倉岳→朝日岳→蓮華温泉縦走（会山行）

- 1 日 18:00 柏発⇒道の駅白馬仮眠
 - 2 日 猿倉登山口→白馬山荘泊
 - 3 日 山荘→白馬岳→雪倉岳→朝日小屋泊
 - 4 日 小屋→蓮華温泉→帰柏 22:00
- 暑さのため少しバテ気味でしたが、晴天に恵まれ充実した山行となりました。猿倉 P から蓮華温泉への車の移動は車代行を利用しました。
- 参加者 4 人、車利用



朝日岳山頂 2418m

2. 南アルプス 甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳山行（個人山行）

- 1 日 20:00 柏発⇒道の駅（仮眠）
 - 2 日～5 日
- 仙流荘⇒北沢峠（テント）、アサヨ峰
甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳、鉢盛山
⇒帰柏
- 北沢峠周辺山小屋は、この時期予約で満員。峠より 500m 下のテント場を利用して山行を楽しみました。
- 参加者 2 人、車利用



アサヨ峰山頂 2799m

3. 南アルプス 荒川三山縦走（会山行）

- 23 日 19:00 柏発⇒途中仮眠
 - 24 日 榎島→千枚小屋泊
 - 25 日 小屋→千枚岳→悪沢岳→赤石岳
→赤石避難小屋泊
 - 26 日 小屋→榎島⇒帰柏 21:00
- 山行中晴天に恵まれ、3000m 級の縦走を楽しみました。
- 参加者 4 人、車利用



赤石岳山頂 3120m

北海道山行報告

寺崎 真理 (ちば山の会)

【山 域】 北海道中部・西南部

【メンバー】 CL 菅井修 SL 井上里美 寺崎真理(記録) 杉山喜代枝

【日 程】

7月21日 千葉 12:00→外環道→東北道→9:00 青森港 カーフエリー海割 22:25

7月22日 2:05 函館港→5:45 登山口→6:40 馬の背→7:30 登山口→8:00 大沼公園 10:00
→旭川→16:20 天塩ヒュッテ(泊)

7月23日 ヒュッテ 5:30→8:20 前天塩→10:00 天塩→10:55 避難小屋→ヒュッテ→
糠平ユース(泊)

7月24日 糠平ユース→橋梁散策→12:40 白雲山登山口→14:25 白雲山→15:40 登山口→
ユース(泊)

7月25日 糠平ユース→三国峠→糠平ユース→洞爺湖有珠山ジオパーク→有珠山→
ちはせ川温泉(泊)

7月26日 ちはせ川温泉 5:00→登山口 6:00→9:20 狩場山→12:20 登山口→
12:50 ちはせ川温泉→函館

7月27日 青森→東北道→外環道→千葉

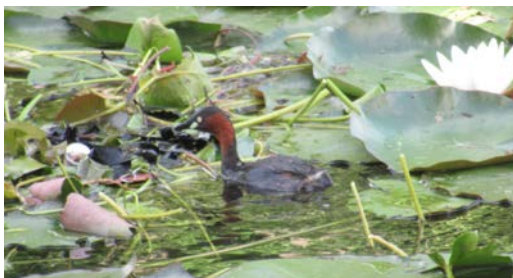
【報 告】

22日(月) 霧雨から移動に従ってどんどん好転。函館から駒ヶ岳を目指す。駒ヶ岳の山道は大きくえぐられ、雨が勢いよく流れる様子を思わせた。しかし、その両側には低木や草花が育ち植物の生命力を感じさせる。「馬の背」に着く。ここから先は登山禁止。あいにく

霧で周囲は全く見えなかった。



その後、大沼国定公園の散策。沼には水蓮が覆いつくし、コウホネの黄色が目につく。水蓮の近くには小さな水鳥の夫婦が巣作りをしていた。オスはなかなかの働きものだった。



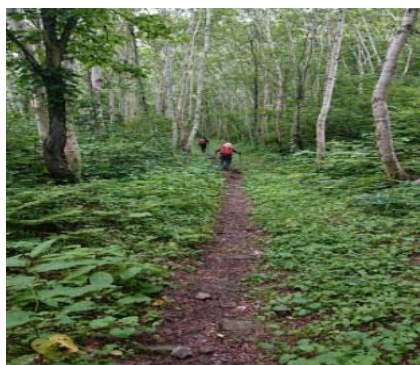
室蘭を通過して札幌に向かう。室蘭は製鉄の町だが、ここもシャッター商店街だった。

宿泊先の「天塩ヒュッテ」は無料の2階建てログハウス。中には流し台まで完備され、至れり尽くせりだ。大きな窓からは寝たままで星々が見られ、別世界にいるよう。大らかな設計が嬉しい。

日々、職員が部屋の掃除や備品を揃えにみえるらしい。北海道の懐の広さを感じる。

23日(火) 午前晴 昼霧 午後晴

この日、一人はすぐ下の川で魚釣り。その他は天塩岳に向かう。道の両側にはフキが生い茂り、ひんやりして気持ちがいい。



前天塩までは火山岩塊が歩行を邪魔したが、そのガレの間に可愛いコマクサが見られ、白もいくつかが咲いていた。頂上付近は低い雲に覆われ、霧も迫ってきて、雨になるかとも思いきや、晴れてくる。山頂から、歩いてきた前手塩が大きく見える。



その両側は登りとは打って変わって、花々が咲き誇るお花畑だった。

下山路途中、三角屋根で囲まれた避難小屋があった。ロフト付きで中には避難者用のシュラフも干してあった。近

くのトイレの全く同じ形が面白い。安全に気を配り、かつ登山者の気持ちとを和ませる素敵な心配りだ。

24日(水)ははっきりしない天候のため、どこまでも真っ直ぐ続く廃線鉄道跡等を散策。所々大きなフキが繁り、これまた大きな姥百合が咲いている。その線路が沢や川に架かるいくつもの崩れかけたアーチ型の橋梁を見た。これらの橋梁はカメラマニア間ではかなり有名らしい。

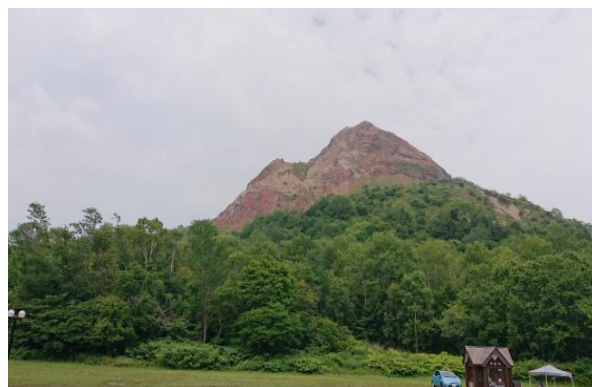




昼前、然別湖側登山口に向かい白雲山に登る。ちょっと南アルプスか日本庭園かと思わせる登山道を通る。樹林帯では葉先が少しピンクになっているマタタビが目立つ。白山頂近は全く景色が違う大きな岩がごろごろした山だった。雲海が流れ、幻想的だ。白雲山はという名はここからきているのか、と納得。

25日(水)曇りのち晴れ

朝三国峠を通る。よくもまあ、こんな道路を造るものだと感心するぐらい、山から山に架けられた長い道は圧巻だ。その下には白樺の原生林が昔の姿を留めている。



有珠山にも登った。畑から生まれた昭和新山はニュースで見たものよりとてつもなく大きい。これらを買収して観察をし続けた郵便局長さん。様々な人の力で、ジオパークは保たれている。

26日(木)は狩場山登山。霧雨が、途中からどしゃぶり。頂上を確認して急いで下山する。宿泊した宿の好意で温泉に入り、汗と雨で濡れた衣類を着替えた。(文責：寺崎眞理)

北アルプス針ノ木岳縦走記

市川山の会 松宮 俊一

1日目(7月28日) 曇り時々晴れ一時雨

今年の夏山特別企画は、北アルプス針ノ木雪渓を登り、立山・剣岳・黒部湖の展望台、高山植物が美しい針ノ木岳・スバリ岳・赤沢岳・鳴沢岳・岩小屋沢岳を縦走する2泊3日の山旅。参加者は男性10名、女性5名の15名。

東京駅発の北陸新幹線「かがやき号」で長野駅へ。台風の雨も上がっていた。特急バスで扇沢へ。標高は約1、350m、さわやかな風が肌に心地よい。9時30分出発。針ノ木小屋までの標高差は約1、100m。木々が繁る道を歩く。沢を渡渉し、ブナ林を過ぎると大沢小屋。小屋の前の岩には、百瀬慎太郎のレリーフ。狭い庭で昼食。

大沢小屋から、ニッコウキスゲやギボウシ、ウツボグサなどが咲く沢沿いの道を歩くと針ノ木雪渓。雪渓を登る人が豆粒のよう。針ノ木岳山頂は雲の中。

軽アイゼンをつけ雪渓に踏み入れる。強風がつくるシュカブラ模様が美しく、雪の上を渡る風が涼しい。一步一步雪を踏みしめ慎重に登る。途中から傾斜が急になり緊張する。雪渓を歩くと約1時間で登山道に戻る。アイゼンをはずすとほっとする。

針ノ木峠まで急な道が続く。チングルマ、ヨツバシオガマ、ミヤマダイコンソウ、ミヤマキンポウゲなどの高山植物が美しい。針ノ木小屋の屋根が見えてきた。振り返れば、爺ヶ岳の端正な姿が美しく、稜線に種池小屋も見える。

最後の水場で喉を潤す。冷たくて美味しい。ジグザグの急坂を登ると針ノ木小屋。思わず歓声を上げる。大沢小屋から約3時間30分。ほぼコースタイム通りだ。喫茶コーナーで喉を潤し、お互いの健闘を讃える。夕食も意外に豪華で美味しい。

夜、外に出る。涼しい。空には満天の星。木星、土星、北斗七星、カシオペア、天の川や夏の三角が見える。明日に備えて床に就く。

2日目(7月29日) 霧のち晴れ一時雨

濃い霧が峰々を隠し、針ノ木岳の山頂は見えない。午前6時30分出発。今日は針ノ木岳、スバリ岳、赤沢岳、鳴沢岳から新越山荘への大縦走。長丁場だ。気を引き締めて、一步一步登る。針ノ木岳までの標高差は約300m。登山道の側には、イブキジャコウソウ、タイツリオウギ、ヨツバシオガマ、イワカガミ、ミヤマオダマキ、ツガザクラなどの高山植物が美しい花を咲かせている。急な岩場で雷鳥の親子を発見。感激。餌を探していて逃げない。冬の準備か、親鳥の羽が白くなりつつあった。

約1時間で針ノ木岳の山頂に着く。霧が濃く、展望はまったく得られない。三角点の石柱にタッチし、記念写真を撮る。

針ノ木岳を後に、岩場の険しい道を慎重に下る。標高差約200mを下り、スバリ岳との鞍部に着く。白い霧の中の針状の岩峰が幻想的だ。岩が重なる急な道を登ると、スバリ岳の狭い山頂に着く。足元のガレ場には、高山植物の女王コマクサのピンクの花。

スバリ岳からは急な岩場の道を下る。シコタンソウやミヤマクワガタ、イワベンケイなどの花が咲き、ザレた斜面にはコマクサの大群落。思わず歓声を上げる。

白い霧が急にはれてきて景色が広がる。大量の雪が残る雄大な立山連峰・劔岳が目の前に聳えている。白く輝くカール地形が美しい。眼下には緑の絵の具を流したような黒部湖。観光船が白い航跡を描いて進む。ダイナミックな景観に感動。

急な岩場の稜線を、片側だけ霧が湧く赤沢岳の山頂をめざして登る。ハクサンシャクナゲ、トウヤクリンドウ、タカネスミレ、イワギキョウ、ミヤマクワガタが美しい。岩場を登りきると小広い赤沢岳の山頂。青空の下ゆっくりと昼食をとる。昼寝をしたいようなのどかな気分だ。

最後のピーク鳴沢岳をめざし下る。信州側が崩れ落ちた稜線を登ると狭い鳴沢岳の山頂。また霧が出てきた。急な岩場を3点確保に注意しながら慎重に下る。ハクサンフウロウやシナノキンバイが美しい。コバイケイソウの大群落が見えると新越山荘。

針ノ木小屋から約9時間。目の前には大きな山体の蓮華岳、振り返れば今日歩いた針ノ木岳からスバリ岳、赤沢岳、鳴沢岳の峰々が重なっている。よく歩いたものだ。喫茶室からは、夕焼け空に浮かぶ劔岳が美しく望まれた。

3日目(7月30日) 晴れ時々曇り

新越岳が邪魔でご来光は望めないが、朝日に染まる雲海が美しい。浅間山や四阿山が島のよう。

午前6時出発。新越岳に登り、立山・劔岳の最後の絶景を楽しむ。歩きやすい緩やかな登山道が続く。岩小屋沢岳からは、眼下に扇沢の駐車場や針ノ木雪渓、前方には爺が岳、鹿島槍ヶ岳、五竜岳などが望まれる。樹木の下にはキヌガサソウやゴゼンタチバナの群落。歓声が上がる。ウサギギクやオオヒョウタンボク、ベニバナイチゴも多い。

種池山荘でしばし休憩をとる。南側斜面はコバイケイソウの大群落が広がっている。

午前9時過ぎ、扇沢をめざして標高差約1、100mを下る。石畳の道が続き歩きにくい。滑らないように慎重に下る。登ってくる登山者も多い。林床にはヤマブキショウマ、カラマツソウ、ハクサンオミナエシなどが咲いている。雪渓の横断には気を遣う。

午後1時過ぎ、7時間余り歩いて15人全員が無事登山口に到着。扇沢から長野駅行特急バスで帰路に就く。美麻温泉に立ち寄り、汗を流し、全員の無事下山を祝して乾杯する。長野駅から北陸新幹線「かがやき号」で帰京。

今回の山行は、急な雪渓やアップダウンの多い岩稜歩きなど予想外のハードなコースだったが、3日間ともまずまずの天気で、立山・劔岳・黒部湖の絶景や数多くの高山植物に出会え、雷鳥にも遭遇し、満足度の高い山行になった。何よりも厳しいコースを踏破して15人全員が無事下山出来たことが良かった。



まだ、間に合う、当日参加OKです

山筋ゴーゴー体操

いつまでも楽しく登るために

楽しく学ぶ 正しく学ぶ

実施日 2019年 9月7日(土) 13時~16時30分

場 所 船橋市西部公民館・第1・2会議室(2F)

(JR総武線下総中山駅下車・徒歩10分)

参加費 ワンコイン(500円)

講 師 石田 良恵 先生 (山筋ゴーゴー体操考案者)

山筋ゴーゴー体操は

**「高齢者がいつまでも、登山を続ける」ために考案され
全国規模で普及しています。**

**「好きな山に登る楽しみ」を何時までも続けるための
トレーニングです。**

**今回は、夏山の疲れを癒し、秋山への想いを大きくする
ワンポイント、レッスンもあります。**

◆ **問い合わせ先・**

◆ **千葉県勤労者山岳連盟 ホームページ事務局への問い合わせまで**

主催 千葉県連盟女性委員会

県連予定表

九月	
日付	曜日 会議・イベント
1	日 関東ブロック役員交流会@群馬
2	月 女性委員会17:30 役員会19:00 県連事務所
3	火
4	水
5	木
6	金
7	土 ワンコイン講習会"山筋ゴ-ゴ-体操" 13:00~
8	日
9	月
10	火 ハイキング委員会 19:00~@県連事務所
11	水
12	木
13	金 組織委員会 19:00~@県連事務所
14	土
15	日
16	月 敬老の日
17	火
18	水
19	木 県連理事会 19:00~@船橋西部公民館
20	金
21	土
22	日
23	月 秋分の日
24	火 教育遭難対策委員会 19:00~@県連事務所
25	水
26	木
27	金
28	土 全国ハイキング学校 東京
29	日
30	月

十月	
日付	曜日 会議・イベント
1	火
2	水
3	木
4	金
5	土
6	日
7	月 役員会 19:00~@県連事務所
8	火
9	水
10	木
11	金
12	土
13	日
14	月 体育の日
15	火
16	水
17	木 県連理事会 19:00~@船橋西部公民館
18	金
19	土
20	日
21	月
22	火
23	水
24	木
25	金
26	土 全国女性交流会 和歌山
27	日
28	月 教育遭難対策委員会 19:00~@県連事務所
29	火
30	水
31	木

事故一報送付先

- ①教育遭難対策委員会へメールまたはファクス
 メール: itou2385@yahoo.co.jp (伊東)
 ファクス: 043-271-4704 (岡田)
- ②全国連盟事務局にメールまたはファクス
 メール: jwaf@jwaf.jp
 ファクス: 03-3235-4324

連盟費の振込先はこちら!

郵便振替口座 00160-3-0481509
 千葉県勤労者山岳連盟

お願い

まだまだ原稿募集中!
 今年登った夏山の写真にちょっとしたコメント
 付けて送ってください。
 九月号と十月号に分けて特集を組みます。
 コメントは自慢話、失敗談など何でもOK、二三
 行書いていただけたらそれで充分です。
 送付先 m-toishi@min-iren-c.or.jp (戸石)
 tanekura@gmail.com (種蔵)
 danphi ro@zpost.plala.or.jp (広木)

発行者: 千葉県勤労者山岳連盟

発行責任者: 広木国昭

住所: 〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18 レジデンス幕張台 101号室

電話: 043-306-1190

E-mail: rousanchiba@grape.plala.or.jp

HP: https://www.cwaf.jp

(県連事務所に常駐者はいません)